

# インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：7月レポート

稲田義久 (APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)  
松林洋一 (APIR 上席研究員)  
野村亮輔 (研究推進部)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: nomura-r@api.or.jp

## ポイント

### ● 8月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

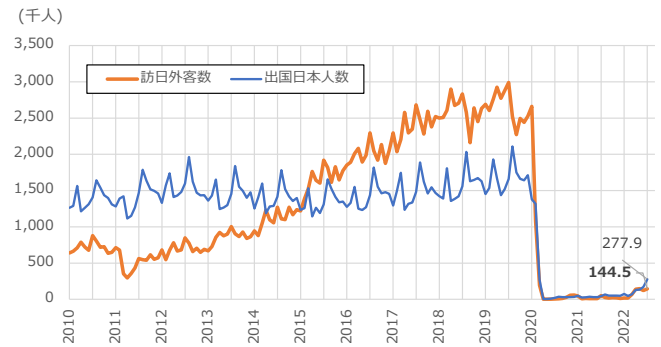
▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 3)、7月の訪日外客総数(推計値)は14万4,500人となった(2019年同月比-95.2%)。4カ月連続で10万人を超える水準となったが、同月の訪日外客数を1日当たりに均せば4,661人ととどまっており、1日当たりの入国者数の上限である2万人には満たない状況である。なお、同月の日本人出国者数は27万7,900人と前月(17万1,529人)から増加し、20年3月(27万2,697人)以来の水準となった。19年同月比では-83.3%とマイナス幅は5カ月連続で縮小。世界各国・地域で水際対策の緩和が進んでいることもあり、**アウトバウンド需要の回復がインバウンド需要より先行している**。

▶ 訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると、ベトナムが2万2,700人と、入国緩和が行われた22年3月以降、5カ月連続で最多となった。次いで韓国が2万400人、中国が1万4,800人、米国が1万4,100人、インドネシアが7,200人と続く。

▶ 目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、5月は14万7,046人となった(2019年同月比-94.7%)(図2及び表4)。うち、観光客は7,308人(同-99.7%)、商用客は2万2,743人(同-85.6%)、その他客は11万6,995人(同-26.7%)であった。その他客は2カ月連続で10万人を超える水準となった。なお、その他客を国・地域別でみると、ベトナムが3万7,965人(同+66.1%)と前月(2万9,322人)に引き続き2万人を超える水準となり、技能実習生などを中心に入国が進んでいると思われる。

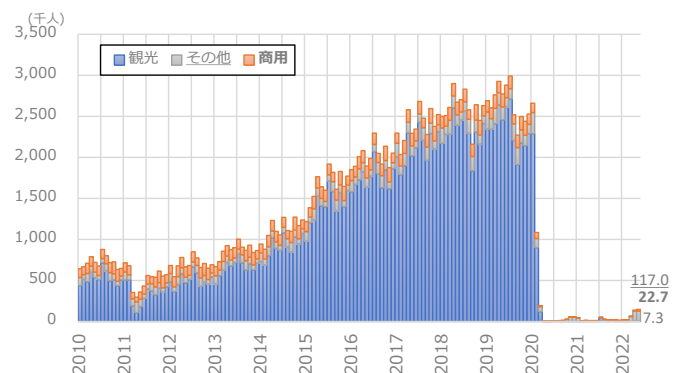
▶ 9月に入り日本の水際対策が一層緩和された。政府は9月7日からワクチンの3回接種を条件に、出国前72時間以内の陰性証明書提示を廃止したことに加え、1日当たりの入国者数の上限をこれまでの2万人から5万人へと引き上げた。また、外国人観光客の新規入国について、7日から添乗員なしの団体ツアーの受け入れも開始した。これらの緩和策により、訪日外客数の回復が見込まれよう。観光庁は2022年7月22日から入国者健康確認システム(ERFS)による今後3カ月の外国人観光客の新規入国希望者数を週次ベースで公表している。9月8日時点では、9月1万4,827人、10月1万7,962人、11月以降5,167人、合計3万7,956人の入国が予定されている(図3)。前週調査の合計(2万8,159人)と比べると、9,797人増加しており、これまでのペースから5,000人弱上振れしている。今後、**更なる緩和策(入国者数の上限撤廃、個人旅行の解禁、短期ビザ取得の免除)により訪日外客の増加が期待される**。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



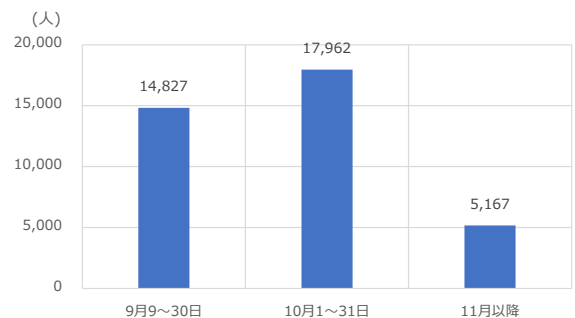
出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成  
注) 2021年まで確定値、22年1-5月は暫定値、6-7月は推計値

図2 目的別訪日外客数推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成  
注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

図3 今後の外国人観光客新規入国希望者数の推移



出所: 観光庁 HP「今後の外国人観光客新規入国希望者数」より作成。  
注) 入国者健康確認システム(ERFS)の申請数のため、随時変化している。また、実際に入国するかは不明。

\*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意ください。

## トピックス 1

### ● 7月関西の財貨・サービス貿易及び6月のサービス産業動向

▶ 関西7月の輸出は前年同月比+19.4%と17カ月連続の増加だが、前月(同+21.0%)から幾分減速した(図4)。また、輸入額は円安の加速や原油高の影響もあり、同+47.2%と18カ月連続で増加した(前月:同+41.2%)。輸入の伸びが輸出の伸びを大きく上回った結果、関西の貿易収支は-381億円と2カ月ぶりの赤字となった(前年同月差-3,057億円)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西7月の対中輸出は前年同月比+17.7%と3カ月連続の増加(前月:同+14.2%)。輸出増に寄与したのは半導体等電子部品や映像機器等であった。また、対中輸入は同+34.2%と3カ月連続の増加(前月:同+41.1%)。うち、輸入増に寄与したのは無機化合物や衣類及び同附属品等であった。結果、貿易収支は-631億円と5カ月連続の赤字となった(前年同月差-674億円)。

▶ 7月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は2万5,189人と4カ月連続で2万人超の水準となった(2019年同月比-96.7%)。しかし、全国と同様に依然本格的な回復には至っていない。また、日本人出国者数は2万6,008人で、前月(1万4,447人)から増加した(同+91.8%)。

▶ 6月のサービス業の活動は前月から小幅悪化だが、持ち直し傾向が続く。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み:2015年平均=100)をみれば(図7)、6月は99.9で前月比-0.2%小幅低下し、4カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+1.1%)。また、対面型サービス業指数\*は91.2となり同-0.0%小幅低下し、4カ月ぶりのマイナス(前月:同+5.5%)。うち、**飲食店、飲食サービス業(同-6.9%)**や**娯楽業(同-6.4%)**が低下に寄与した。結果、4-6月期の第3次産業活動指数は99.7、前期比+2.4%、対面型サービス業は89.6、同+6.2%と、いずれも2四半期ぶりのプラスとなった(1-3月期:第3次産業:同-1.0%、対面型サービス:同-0.2%)。

▶ 観光関連指数\*\*(2015年平均=100)は、83.1と前月比+0.3%小幅上昇し、4カ月連続のプラス(前月:同+5.3%)(図7)。各自治体が行っていた旅行需要喚起策が6月末まで延長されたこともあり、**宿泊業(同+8.1%)**は4カ月連続で、**旅行業(同+29.7%)**は2カ月連続でいずれも改善した(前月:宿泊業:同+20.7%、旅行業:同+17.6%)。行動制限のない大型連休の影響もあり4-6月期では、81.6、前期比+11.7%大幅上昇し、2四半期ぶりのプラスとなった(1-3月期:同-5.8%)。

\*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

\*\*観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

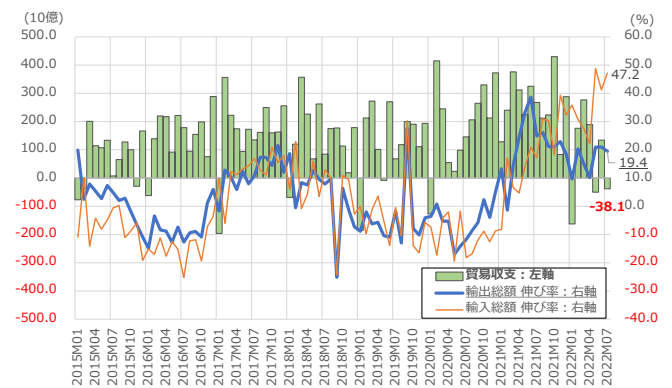
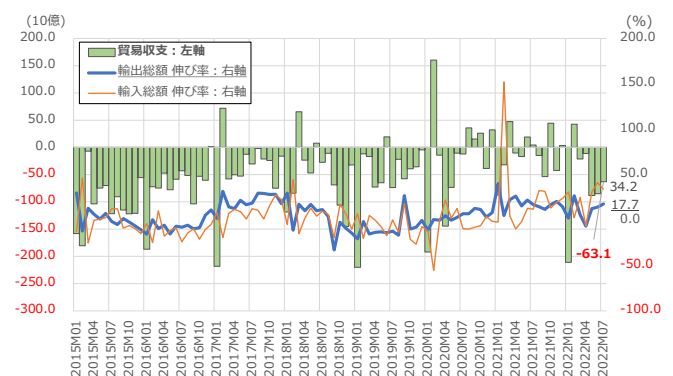
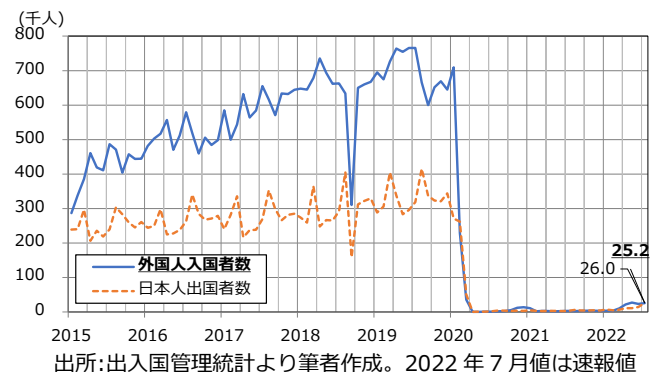


図5 関西 対中貿易の推移



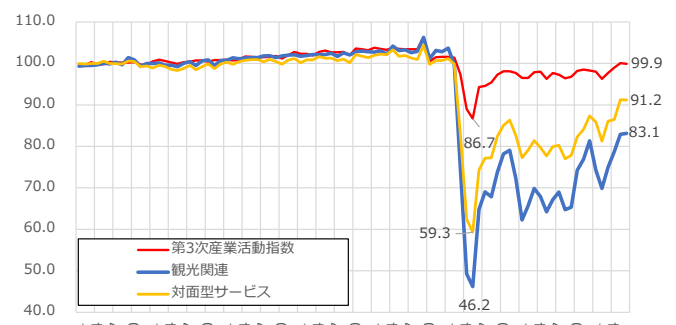
出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2022年7月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業:2015年=100



出所:経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

## トピックス 2

### ● 5月延べ宿泊者数の動向：関西 2府 8県

▶観光庁によれば、5月の関西 2府 8県の延べ宿泊者数(全体)は 7,274.3 千人泊であった(表 1)。3年ぶりに行動制限のない大型連休による影響もあり、2019年同月比は-33.8%と前月(同-43.8%)から減少幅は縮小した。

▶日本人延べ宿泊者数は 7,170.0 千人泊であった。2019年同月比-11.2%と前月(同-18.8%)から減少幅は縮小した(表 1 及び図 8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,347.2 千人泊、京都府 1,806.7 千人泊、兵庫県 1,068.8 千人泊、三重県 599.9 千人泊、和歌山県 341.7 千人泊、滋賀県 282.1 千人泊、福井県 219.4 千人泊、奈良県 185.6 千人泊、徳島県 168.7 千人泊、鳥取県 149.8 千人泊であった。伸びをみれば、兵庫県(同-2.8%)、大阪府(同-4.1%)は前月(兵庫県：同-15.2%、大阪府：同-16.4%)からいずれも減少幅が大幅縮小した。

▶外国人延べ宿泊者数は 104.3 千人泊となった。2019年同月比-96.4%と依然大幅減少が続いているが、減少幅は 4カ月連続で縮小(前月：同-97.9%)(表 1 及び図 9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 62.1 千人泊、京都府 27.2 千人泊、兵庫県 3.9 千人泊、三重県 3.4 千人泊、奈良県 2.5 千人泊、滋賀県 1.4 千人泊、徳島県 1.2 千人泊、福井県 1.0 千人泊、鳥取県 0.9 千人泊、和歌山県 0.6 千人泊であった。

▶関西 2府 8県延べ宿泊者を居住地別でみると(図 10)、県内の延べ宿泊者数は 1,617.1 千人泊(2019年同月比+11.5%)、県外は 5,460.1 千人泊(同-39.5%)であった。行動制限のない大型連休により旅行需要が増加したこともあり、県外の減少幅が前月(同-50.1%)から大幅縮小した。

▶6月の全国延べ宿泊者数(全体、1次速報ベース)は 34,513 千人泊、19年同月比-24.7%と減少幅は前月(同-28.5%)から縮小した。各自治体による独自の旅行需要喚起策が 9月末まで延長されたこともあり、6月以降も延べ宿泊者数は緩やかな持ち直しが続く予想される。

図 8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

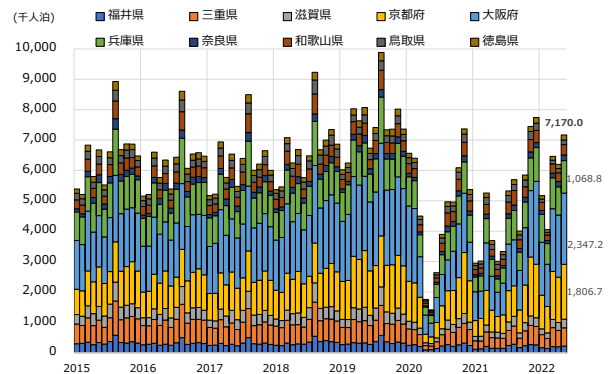


図 9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

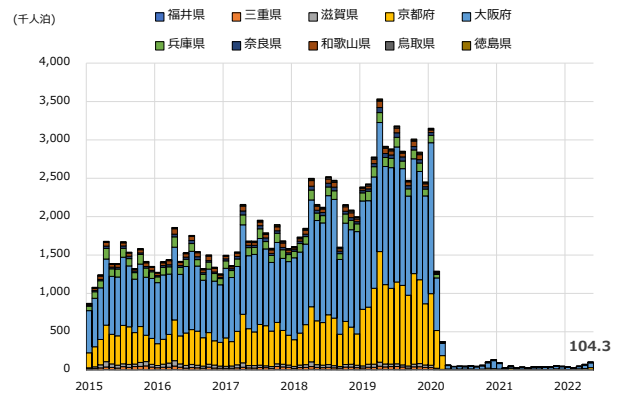
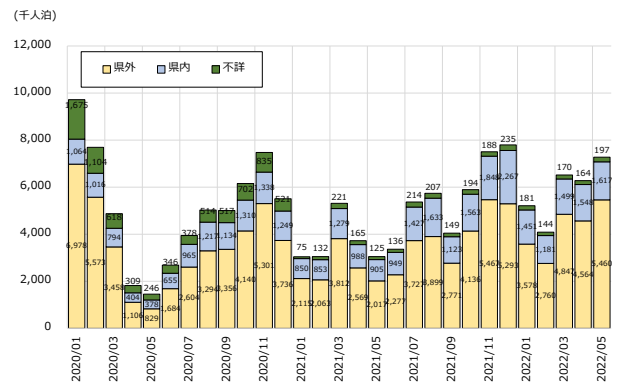


図 10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表 1 関西 延べ宿泊者数伸び率：5月

2022年5月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	伸び率： 21年比(%)	伸び率： 19年比(%)
福井県	220.4	56.2	-33.8	219.4	56.2	-32.2	1.0	56.1	-88.6
三重県	603.3	74.2	-21.2	599.9	73.6	-18.0	3.4	446.8	-90.0
滋賀県	283.5	46.3	-40.6	282.1	50.1	-35.8	1.4	-76.2	-96.3
京都府	1,833.9	251.0	-36.8	1,806.7	248.0	-3.2	27.2	735.6	-97.4
大阪府	2,409.4	195.0	-39.5	2,347.2	195.0	-4.1	62.1	192.1	-96.0
兵庫県	1,072.7	141.1	-11.9	1,068.8	142.5	-2.8	3.9	-4.2	-96.7
奈良県	188.1	87.7	-36.4	185.6	85.7	-24.2	2.5	743.3	-95.0
和歌山県	342.3	61.4	-27.6	341.7	61.7	-15.4	0.6	-16.9	-99.1
鳥取県	150.7	-10.2	-47.7	149.8	-9.9	-45.2	0.9	-41.6	-93.6
徳島県	169.9	69.1	-32.6	168.7	68.9	-29.9	1.2	96.7	-89.7
関西2府8県	6,129.9	167.6	-34.4	6,032.2	167.5	-7.2	97.8	176.2	-96.6
関西2府8県	7,274.3	138.8	-33.8	7,170.0	138.4	-11.2	104.3	168.3	-96.4
全国	36,740.3	77.3	-28.5	36,066.0	76.0	-13.5	674.3	182.2	-93.1

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図 8~10 及び表 1)

### トピックス 3

#### ● 2022年4-6月期国内旅行消費の動向：関西2府8県\*

▶観光庁によれば、2022年4-6月期関西(2府8県ベース)の国内旅行消費額(速報)は7,893.0億円であった(表2)。2019年同期比-36.6%と22年1-3月期(同-41.3%)からマイナス幅は縮小した。3年ぶりの行動制限のない大型連休も影響し、**鳥取県が同+94.4%とプラスに転じ**、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、徳島県ではマイナス幅が前期より縮小した。

▶うち、宿泊旅行消費額は、6,053.1億円で2019年同期比-28.0%となり、前期(同-38.7%)からマイナス幅は縮小した(図13及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府2,074.5億円(同-30.1%)、京都府1,066.2億円(同-16.5%)、兵庫県758.7億円(同-53.9%)、和歌山県538.9億円(同-1.9%)、三重県384.9億円(同-36.1%)、鳥取県361.8億円(同+138.7%)、滋賀県306.9億円(同-13.3%)、奈良県271.8億円(同-34.5%)、福井県163.0億円(同-39.6%)、徳島県126.4億円(同-29.9%)であった。鳥取県が唯一プラスに転じ、福井県、和歌山県を除く府県ではマイナス幅が縮小した。

▶うち、日帰り旅行額は1,839.9億円で2019年同期比-54.4%と前期(同-48.3%)からマイナス幅は拡大した(図14及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府437.5億円(同-62.2%)、兵庫県344.2億円(同-53.8%)、京都府318.9億円(同-62.7%)、三重県196.5億円(同-58.7%)、滋賀県155.5億円(同-29.5%)、奈良県127.4億円(同-28.0%)、鳥取県88.8億円(同+10.7%)、福井県65.3億円(同-14.8%)、和歌山県54.8億円(同-70.9%)、徳島県51.0億円(同-10.5%)であった。鳥取県は2四半期連続のプラスとなった(同+46.3%)

▶先行きについては、行動制限のないお盆期間や各府県の需要喚起策が9月末まで延長されたこともあり、引き続き国内旅行需要は緩やかな回復が見込まれている。ただし、6月下旬以降、COVID-19の第7波の影響で外出手控えによる旅行需要減少のリスクに注意が必要である。

図13 関西2府8県 宿泊旅行消費額の推移

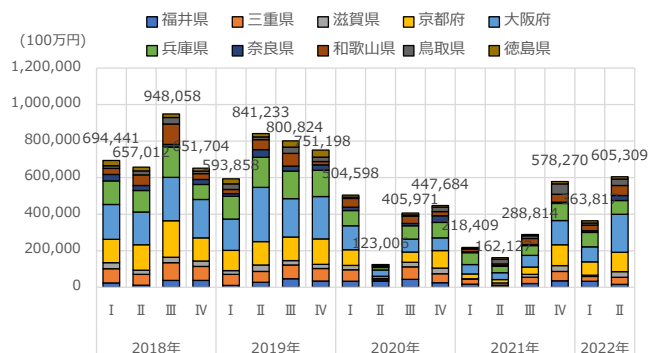
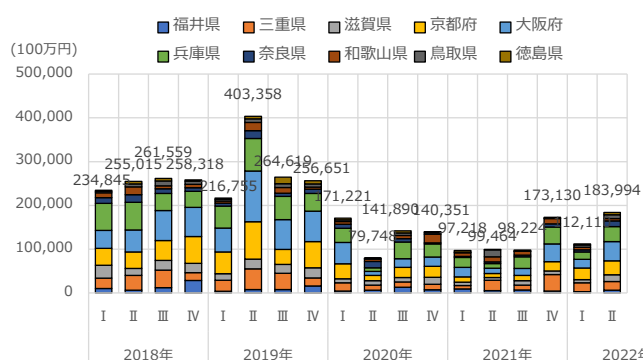


図14 関西2府8県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

2021年、22年1-3月期までのデータは確報。22年4-6月期は速報(上図も同様)。

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表2 関西 国内旅行消費額：2022年4-6月

2022Q2	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	伸び率： 21年4-6月期比 (%)	伸び率： 19年4-6月期比 (%)	金額： 100万円	伸び率： 21年4-6月期比 (%)	伸び率： 19年4-6月期比 (%)	金額： 100万円	伸び率： 21年4-6月期比 (%)	伸び率： 19年4-6月期比 (%)
福井県	22,830.2	195.4	-34.1	16,295.7	637.7	-39.6	6,534.5	18.4	-14.8
三重県	58,140.6	76.3	-46.1	38,486.0	316.3	-36.1	19,654.5	-17.2	-58.7
滋賀県	46,239.4	151.3	-19.5	30,691.5	152.1	-13.3	15,547.9	149.7	-29.5
京都府	138,511.3	411.3	-35.1	106,623.0	485.3	-16.5	31,888.4	259.4	-62.7
大阪府	251,200.0	396.7	-39.1	207,452.3	440.6	-30.1	43,747.7	258.6	-62.2
兵庫県	110,289.9	140.8	-53.9	75,867.0	116.9	-53.9	34,423.0	217.5	-53.8
奈良県	39,921.8	451.3	-32.6	27,180.6	723.8	-34.5	12,741.2	223.2	-28.0
和歌山県	59,371.4	189.3	-19.5	53,889.7	492.0	-1.9	5,481.7	-52.0	-70.9
鳥取県	45,059.6	10.8	94.4	36,180.7	45.1	138.7	8,878.9	-43.6	10.7
徳島県	17,739.2	67.8	-25.2	12,642.5	31.6	-29.9	5,096.7	425.8	-10.5
<b>関西2府8県</b>	<b>789,303.3</b>	<b>201.7</b>	<b>-36.6</b>	<b>605,308.8</b>	<b>273.4</b>	<b>-28.0</b>	<b>183,994.5</b>	<b>85.0</b>	<b>-54.4</b>

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表3 2022年7月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	7月	7月		1-7月	1-7月	
総数	2,991,189	144,500	-95.2	19,624,803	652,100	-96.7
総数(韓国・その他除く)	2,318,285	101,500	-95.6	14,532,385	458,000	-96.8
韓国	561,675	20,400	-96.4	4,424,333	57,000	-98.7
中国	1,050,420	14,800	-98.6	5,582,885	83,200	-98.5
台湾	459,216	3,900	-99.2	2,940,065	14,600	-99.5
香港	216,810	1,100	-99.5	1,314,699	4,600	-99.7
タイ	73,202	4,800	-93.4	756,797	16,100	-97.9
シンガポール	21,716	2,000	-90.8	235,799	5,700	-97.6
マレーシア	22,957	1,600	-93.0	260,886	6,400	-97.5
インドネシア	25,215	7,200	-71.4	241,088	41,100	-83.0
フィリピン	37,771	6,900	-81.7	332,891	34,100	-89.8
ベトナム	40,762	22,700	-44.3	294,009	127,600	-56.6
インド	13,222	4,200	-68.2	106,162	21,800	-79.5
豪州	34,873	2,300	-93.4	361,779	7,500	-97.9
米国	156,865	14,100	-91.0	1,031,989	42,700	-95.9
カナダ	29,285	1,600	-94.5	213,054	5,100	-97.6
メキシコ	8,661	400	-95.4	40,285	1,400	-96.5
英国	28,928	2,900	-90.0	214,626	9,800	-95.4
フランス	34,634	3,600	-89.6	194,944	11,400	-94.2
ドイツ	18,593	3,500	-81.2	137,072	10,600	-92.3
イタリア	13,566	1,400	-89.7	88,334	4,800	-94.6
ロシア	15,771	800	-94.9	67,193	2,900	-95.7
スペイン	9,005	800	-91.1	64,945	3,300	-94.9
中東地域	6,813	900	-86.8	52,883	3,300	-93.8
その他	111,229	22,600	-79.7	668,085	137,100	-79.5

表4 2022年5月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	5月	5月		5月	5月		5月	5月		5月		
総数	2,773,091	147,046	-94.7	2,455,865	7,308	-99.7	157,585	22,743	-85.6	159,641	116,995	-26.7
韓国	603,394	8,805	-98.5	552,260	425	-99.9	29,554	2,830	-90.4	21,580	5,550	-74.3
中国	756,365	17,643	-97.7	668,757	501	-99.9	32,172	1,216	-96.2	55,436	15,926	-71.3
台湾	426,537	1,861	-99.6	407,072	116	-100.0	10,996	836	-92.4	8,469	909	-89.3
香港	189,007	744	-99.6	184,374	44	-100.0	3,388	326	-90.4	1,245	374	-70.0
タイ	107,857	2,922	-97.3	101,260	129	-99.9	3,604	750	-79.2	2,993	2,043	-31.7
シンガポール	37,650	1,215	-96.8	33,775	149	-99.6	3,354	764	-77.2	521	302	-42.0
マレーシア	42,629	1,636	-96.2	39,431	51	-99.9	2,137	568	-73.4	1,061	1,017	-4.1
インドネシア	30,107	8,720	-71.0	25,015	123	-99.5	1,812	369	-79.6	3,280	8,228	150.9
フィリピン	59,578	6,699	-88.8	50,888	1,050	-97.9	2,864	560	-80.4	5,826	5,089	-12.7
ベトナム	39,900	39,040	-2.2	13,809	187	-98.6	3,228	888	-72.5	22,863	37,965	66.1
インド	19,914	4,501	-77.4	9,983	98	-99.0	5,308	757	-85.7	4,623	3,646	-21.1
豪州	46,223	1,503	-96.7	41,613	265	-99.4	3,308	702	-78.8	1,302	536	-58.8
米国	156,962	8,066	-94.9	129,959	1,777	-98.6	19,722	3,362	-83.0	7,281	2,927	-59.8
カナダ	35,335	949	-97.3	31,948	231	-99.3	2,129	354	-83.4	1,258	364	-71.1
メキシコ	5,482	229	-95.8	4,836	27	-99.4	414	56	-86.5	232	146	-37.1
英国	31,642	1,926	-93.9	24,628	279	-98.9	5,140	989	-80.8	1,874	658	-64.9
フランス	30,863	2,008	-93.5	24,792	278	-98.9	3,907	932	-76.1	2,164	798	-63.1
ドイツ	21,552	2,241	-89.6	15,060	259	-98.3	5,340	1,406	-73.7	1,152	576	-50.0
イタリア	12,463	897	-92.8	9,728	77	-99.2	2,143	534	-75.1	592	286	-51.7
ロシア	9,691	357	-96.3	7,330	40	-99.5	1,638	151	-90.8	723	166	-77.0
スペイン	9,971	517	-94.8	8,580	44	-99.5	913	248	-72.8	478	225	-52.9
中東地域	5,679	630	-88.9	4,167	39	-99.1	1,081	360	-66.7	431	231	-46.4
その他	94,290	33,937	-99.6	66,600	1,119	-100.0	13,433	3,785	-99.7	14,257	29,033	-98.0

注) 目的別訪日外客数の定義については、図2注参照。

出所: 日本政府観光局(JNTO)、2022年8月17日付より筆者加工